

飲食や呼吸を通じて体内から健康をむしばむ放射能の内部被ばくに焦点を当てた岐阜環境医学研究所長の松井英介さん(73)は岐阜市長良雄総の著書「見えない恐怖―放射線内



松井英介さん

部被曝(ばく)―」が出版された。福島原発事故による放射能汚染が日本をはじめ地球規模で広がる中、放射線医の立場で内部被ばくの危険性に強く警鐘を鳴らしている。

松井・岐阜環境医学研究所長が本出版

内部被ばくに警鐘

第1章ではチェルノブイリ原発事故を例に今回の原発事故による健康障害を解説し、放射線から身体を守るための視点を述べる。2、7章は内部被ばくとはどのようなものか、ける。



出版された「見えない恐怖―放射線内部被曝(ばく)―」

松井さんは「内部被ばくを評価すると作業員の健康リスクが高すぎて原発が運転できなくなるため排除されてきたが、福島の汚染レベルは深刻で、岐阜も子どもの集団移住を支援する必要がある。被ばくの仕組みや健康への影響を正しく知るため、幼子や中高生を抱えた若い世代にぜひ読んでほしい」と話す。同書は旬報社刊。四六判、176ページ。税込1470円。

(永井豪)